

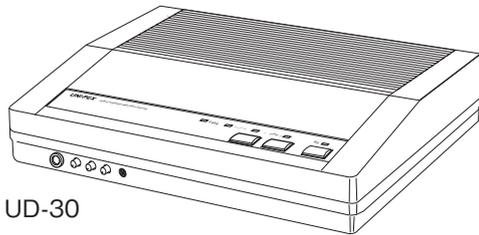
取扱説明書 (保証書兼用)

定格出力 30W

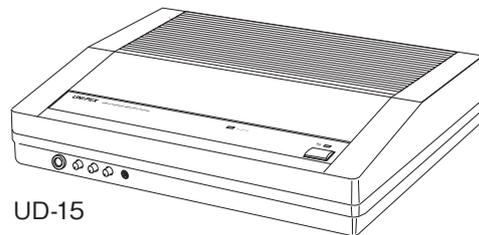
UD-30

定格出力 15W

UD-15



UD-30



UD-15

このたびは、ページングアンプをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

目次

安全上のご注意	1~3	<input type="checkbox"/> ページングの接続について	11
各部の名称と説明(上面/前面)	4	<input type="checkbox"/> 非常用放送設備との接続について (UD-30のみ)	11
オートマチックフェーダ回路について	4	<input type="checkbox"/> 設置のしかた	12
各部の名称と説明(底面/後面)	5	ノイズ対策について	13
操作のしかた	6~7	点検方法	13
■工事説明		定格	14
<input type="checkbox"/> 接続のしかた (接続例)	8	外観寸法図	14
<input type="checkbox"/> 入出力端子台への接続について	9	保証書	16
<input type="checkbox"/> スピーカの接続について	10	サポートのご案内	16

安全上のご注意

必ずお守りください

- ご使用前に、必ずこの取扱説明書の「安全上のご注意」と取扱・工事方法に関する説明をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになったあとは、必ず保管し、後日分からないことがあれば、再びご覧ください。

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解いただいたうえで、本文をお読みください。

絵表示の例



△記号は注意(危険・警告)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

異常が起きたときは、ただちに使用をやめる

煙が出ている、においや音がある、水や異物が入った、落として破損したなど、火災・感電の原因となります。ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。



分解／改造はしない

火災・感電の原因となります。修理や点検は、販売店などにご依頼ください。



異物を入れない／濡らさない

水や金属が内部に入ると、火災・感電の原因となります。ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。



この機器の上でろうそく等の炎が発生しているものを置かない

火災の原因となります。



この機器の上に花瓶など水の入ったものを置かない

こぼれたり中に水が入った場合、火災・感電の原因となります。



この機器を水滴のかかる場所に置かない

中に水が入った場合、火災・感電の原因となります。



電源コードを傷つけない

電源コードの上に重いものをのせたり、無理に曲げたり、ねじったり、引張ったりすると、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線)販売店などに交換をご依頼ください。



表示された電源電圧以外の電圧で使用しない

火災・感電の原因となります。



雷が鳴り出したら、接続コードや電源プラグには触れない

感電の原因となります。



通風孔をふさいだり、物を載せたりしない

通風を悪くすると、内部に熱がこもり、火災の原因となります。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

工事は工事店に依頼する

工事には、技術と経験が必要です。火災・感電、けが、器物損壊の原因となります。工事店にご相談ください。



本機を電源コンセントの近くに置いて使用する

万一の事故防止のため、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにして使用してください。



湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たるような場所に置かない

火災・感電の原因となることがあります。



不安定な場所に置かない

落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



異常に温度が高くなる場所に放置しない

窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。



長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く

火災の原因となることがあります。



お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く

感電の原因となることがあります。



電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。



電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



⚠ 注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

樹脂加工部に対してベンジンやシンナーなどの溶剤を使用して清掃しない、また、タバコなどの火を近づけない
部品変形により故障して、火災などの原因となることがあります。



長時間音が歪んだ状態で使わない
スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。



濡れた手で電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となります。



電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない
コードが傷つき、火災、感電の原因となります。必ずプラグを持って抜いてください。



電源プラグは根元まで確実に差し込む
差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。



移動するときは、コード類を傷つけない
移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。



この機器に乗ったり腰掛けたりしない
特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。



オーディオ機器、外部スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。



1年に一回程度は、内部の掃除を工事店などにご相談ください。内部にほこりがたまった状態で、長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨時の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、工事店などにご相談ください。



設置・使用上のご注意

- 入力線と出力線は近づけますと発振する恐れがありますので、できるだけ離して配線してください。特にラックに組み込むときにはご注意ください。
- 次のような場所では使用しないでください。誤動作、故障、漏電の原因になります。
・使用温度範囲をこえる場所／使用湿度範囲をこえる場所／屋外などの雨や日光に直接当たる場所／結露が生じる場所／亜硫酸ガスやアンモニアなどの腐食性ガスが発生する場所／激しい振動や衝撃が発生する場所
- 本機を雑音発生の原因になる機器※の近くには設置しないでください。
※高周波機器(乾燥機、医療機器など)、電気溶接機、ブラッシングモーター、自動車の通る道、携帯電話機、デジタル機器(コンピューター、電子楽器など)、空気清浄器。

遮断装置について

- 本機は電源プラグが遮断装置になります。
- 本機は遮断装置へ容易に手が届くように、電源コンセントの近くで使用してください。

免責事項について

当社は下記の事項に関して一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

- ①お客さまの故意、過失、誤用、その他異常な条件下での使用による損害または本製品の破損など
- ②本製品に直接または間接に関連して生じた、偶発的、特殊的、または結果的損害・被害
- ③本製品のお客さまご自身による修理、分解または改造が行なわれた場合、それに起因するかどうかを問わず、発生した一切の故障または不具合により生じた損害
- ④本製品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、使用ができないことなどによる不便・損害・被害
- ⑤第三者の機器と組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害

本機を長期間お使いの場合は

本機を安全に使用していただくために、販売店または工事業者による定期的な点検をおすすめします。外観上は異常がなくても、使用条件によっては部品が著しく劣化している可能性があります。もしそのような状態を発生させましたら直ちに電源を切り(使用中止)、販売店または工事業者に点検や撤去をご依頼ください。特に10年を超えて使用されている場合は、定期点検の回数を増やしていただくとともに買い換えの検討をお願いします。

- ①煙が出たり、こげ臭いにおいや異常な音がしている。
- ②電源コード・電源プラグが異常に熱い。または亀裂や傷がある。
- ③本機に触れるとビリビリと電気を感じる。
- ④電源を入れても音が出ない、その他の異常・故障がある。

各部の名称と説明(上面／前面)

スピーカ出力系統スイッチ(UD-30のみ)

放送されるスピーカ出力系統のスイッチを押してください。押し込まれている状態が「入」で、その出力系統の表示灯が点灯します。再び押しすと「切」に戻ります。

ページング表示灯

電話ページング放送時に緑色に点灯します。

非常遮断表示灯(UD-30のみ)

非常遮断が働いたときに赤色に点灯します。

マイク入力ジャック

(-62dBV 600Ω 不平衡)

ページングマイクなどを接続します。後面のリモートスイッチ付ページングマイクよりも優先されます。オートマチックフェーダ回路付(下記のオートマチックフェーダ回路についてを参照)

マイク音量調節つまみ

ライン音量調節つまみ

ページング音量調節つまみ

(P11のページングの接続についてを参照)

出力系統表示灯(UD-30のみ)

出力系統スイッチ1,2が押されているときに緑色に点灯します。

電源スイッチ

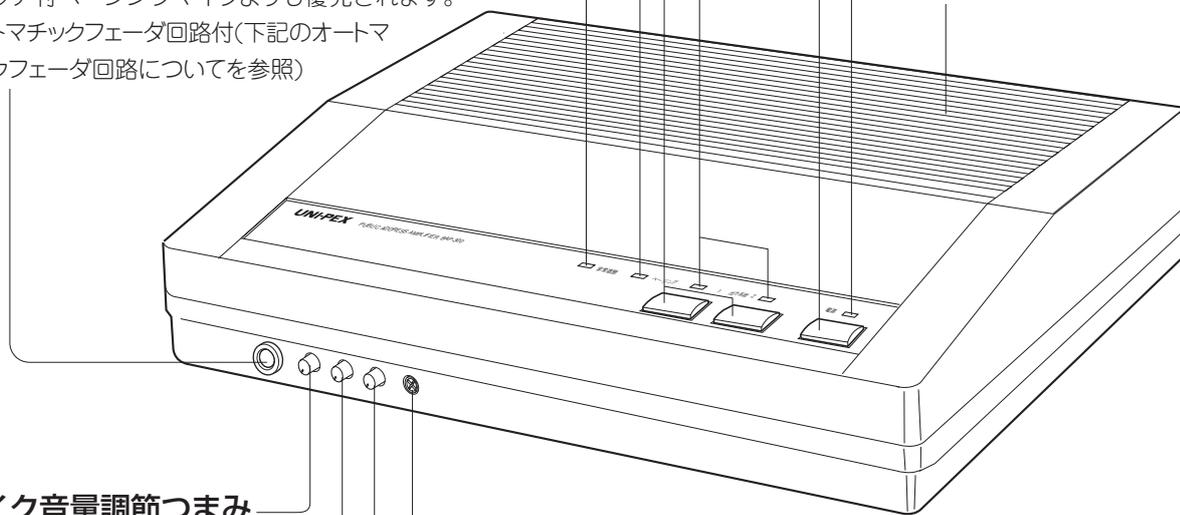
アンプの電源を「入」「切」するときに押します。

電源表示灯

アンプの電源が入ると赤色に点灯します。

放熱用通風孔

ご使用の際は通風孔をふさがらないでください。火災の原因となります。



ミュート量調節つまみ

オートマチックフェーダ回路によるライン入力信号の減衰量を調節します。(下記のオートマチックフェーダ回路についてを参照)

オートマチックフェーダ回路について

- 本機はオートマチックフェーダ回路付です。マイク放送時やページング放送時には、ライン入力に接続されたカセットデッキやCDプレーヤの音量が自動的に減衰します。
- オートマチックフェーダ回路は次の場合に働きます。
 - ・前面マイク入力ジャックに接続されたマイクの音声入力による場合
 - ・後面リモートスイッチ付ページングマイク入力に接続されたマイクのトークスイッチを押した場合。
 - ・ページング放送をするとき、ページング制御入力に制御信号が入力された場合。
- ライン入力信号の減衰量の調節はミュート量調節つまみで調節することができます。右へ回すと、ライン放送の減衰量が大きくなり、左に回すと小さくなります。
- 放送が終わるとライン放送の音量が自動的に元の音量に戻ります。(図1/2参照)

図1

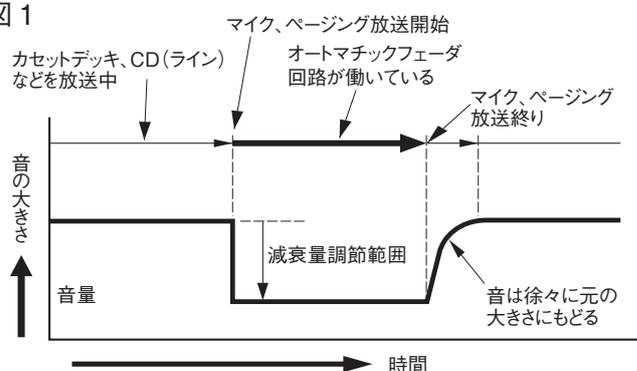
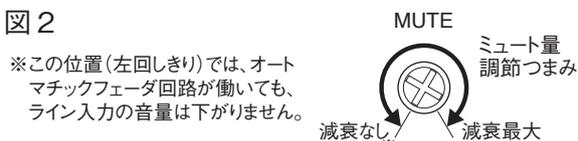


図2



各部の名称と説明(底面／後面)

非常遮断機能入/切スイッチ(UD-30のみ)

本機に非常用放送設備の非常外部端子(24V非常時断)の制御線を接続されたときは、このスイッチを必ず「入」にしてください。また、非常用放送設備と接続しない場合に「入」になっていますと放送ができませんので、必ず「切」にしてください。

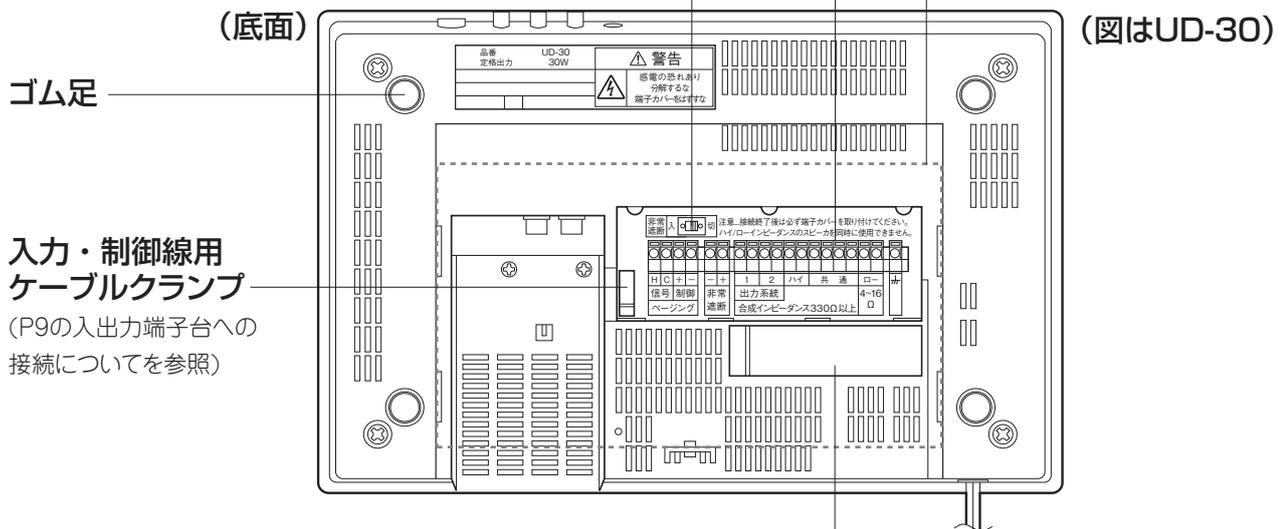
(P11の非常用放送設備との接続についてを参照)

入出力端子台

スピーカ・ページング入力・非常用放送設備などと接続します。(P9の入出力端子台への接続についてを参照)

端子カバー(壁掛金具兼用)

端子台の接続が終われば必ずこのカバーを取付けてください。

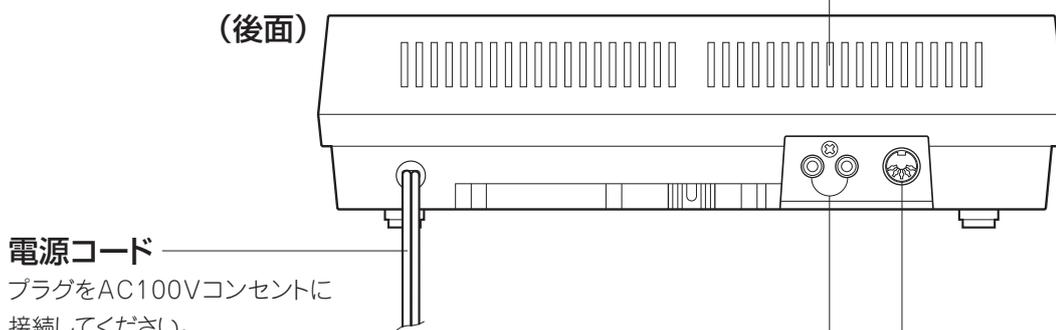


スピーカ線用ケーブルクランプ

(P9の入出力端子台への接続についてを参照)

放熱用通風孔

ご使用の際は通風孔をふさがないでください。火災の原因となります。



ライン入力端子

(-12dBV 10kΩ 不平衡)

テープデッキやCDなどを接続してください。接続機器のL/Rチャンネルに関係なく接続してください。

リモートスイッチ付ページングマイク入力5P DINジャック

(-62dBV 600Ω 不平衡)

リモートスイッチ付ページングマイク(5P DIN端子付)を接続します。マイクのトークスイッチを押すことにより、アンプの電源が「切」のときでも自動的にアンプの電源が入り、放送が可能になります。UD-30の場合はスピーカ出力系統スイッチが両方選択された状態となり出力系統表示灯1,2が点灯します。このジャックと前面マイク入力ジャックの両方にマイクを接続された場合は、前面のマイク入力ジャックが優先されます。

オートマッチックフェーダ回路付(P4のオートマッチックフェーダ回路についてを参照)

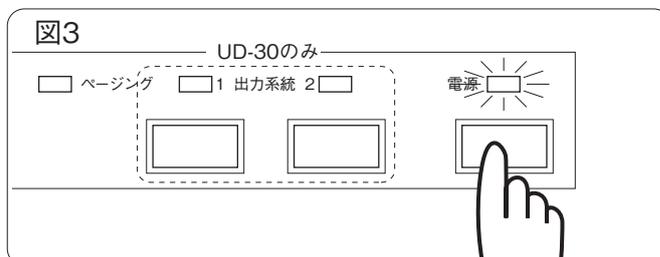
操作のしかた

- ご注意..**
- 電源コードやスピーカコード、その他の接続コードなどが正しく接続されているか確認してください。
 - 各音量調節つまみは反時計回り最小の位置に合わせておいてください。

マイク放送のしかた(前面マイク入力ジャックに接続されたページングマイクなどで放送する場合)

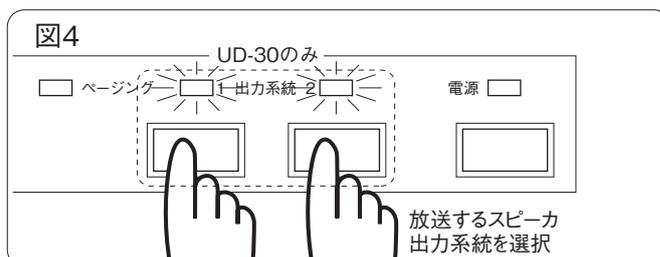
1.電源を入れる

電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が点灯していることを確認してください。



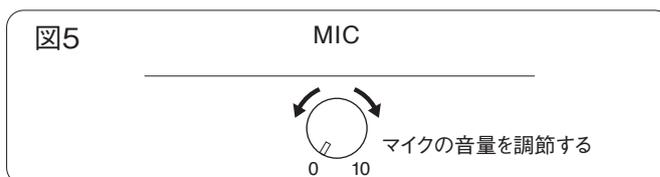
2.放送するスピーカ出力系統を選択(UD-30のみ)

スピーカ出力系統スイッチを押して、放送する出力系統を選択してください。選択した出力系統表示灯が点灯していることを確認してください。(図4参照)



3.マイク放送の音量を調節

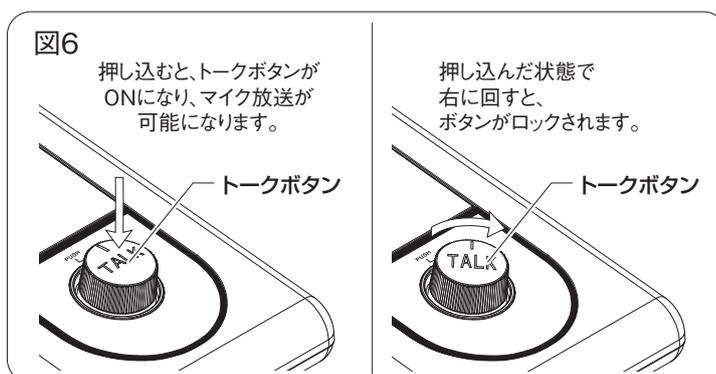
マイク放送の音量をマイク音量調節つまみで調節してください。またマイクにマイクスイッチがある場合は、スイッチを「入」にしてください。(図5参照)



リモートスイッチ付ページングマイク(5P DINソケット付)での放送のしかた

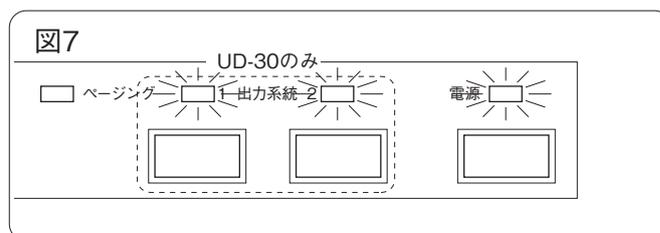
1.マイクのトークボタンを「入」にする

リモートスイッチ付ページングマイクのトークボタンを押すか、もしくはロックします。(図6参照)



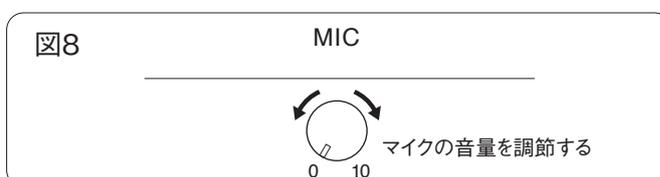
2.自動的に本機の電源が入る

アンプの電源が「切」のときでも自動的にアンプの電源が入り、放送が可能となります。UD-30の場合は、このとき出力系統1、2が両方とも選択された状態となり、出力系統表示灯1、2が両方とも点灯します。(図7参照)



3.マイク放送の音量を調節

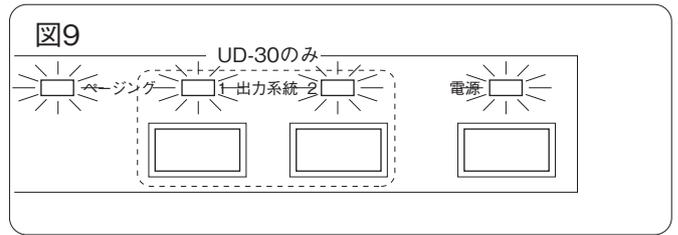
マイク放送の音量をマイク音量調節つまみで調節してください。(図8参照)



電話ページング放送のしかた

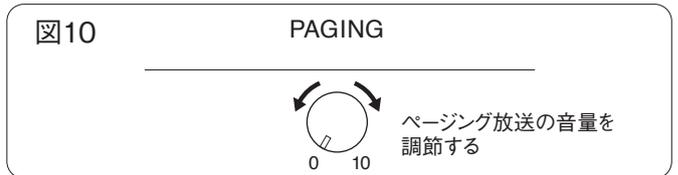
1. 電話によるページング放送を開始

電話ページング制御入力に制御信号が入ると、アンプの電源スイッチが「切」のときでも自動的にアンプの電源が入り、放送が可能となります。UD-30の場合は、このとき出力系統表示灯1、2が両方とも選択された状態となり、出力系統表示灯1、2が両方とも点灯します。(図9参照)



2. ページング放送の音量を調節

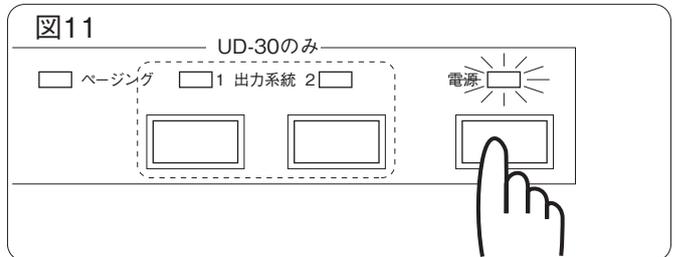
電話ページングの音量をページング音量つまみで調節してください。(図10参照)



ライン入力に接続されたカセットデッキやCDプレーヤなどから放送するとき

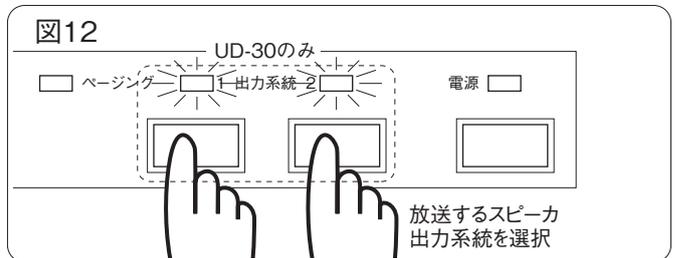
1. 電源を入れる

電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が点灯していることを確認してください。(図11参照)



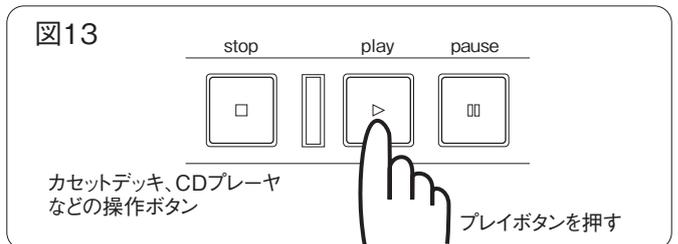
2. 放送するスピーカ出力系統を選択(UD-30のみ)

スピーカ出力系統スイッチを押して、放送する出力系統を選択してください。選択した出力系統表示灯が点灯していることを確認してください。(図12参照)



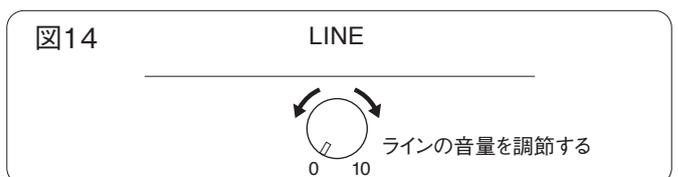
3. ライン入力接続機器の演奏をスタートする

ライン入力に接続されたカセットデッキやCDプレーヤなどの電源スイッチを入れ、演奏をスタートしてください。(図13参照)



4. ライン放送の音量を調節

ライン放送の音量をライン音量調節つまみで調節してください。(図14参照)



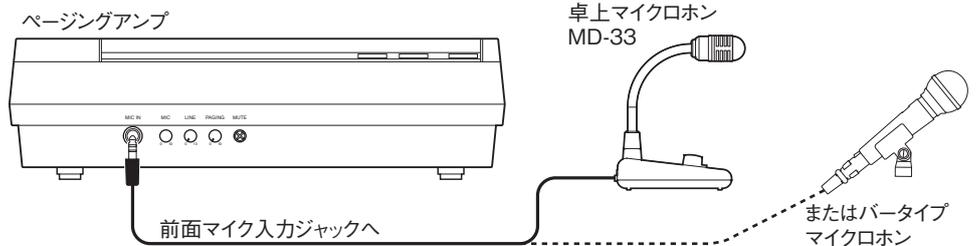
工事説明

本機の工事は、必ず販売店に依頼してください。
また工事をするときは、必ず電源スイッチを「切」にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。

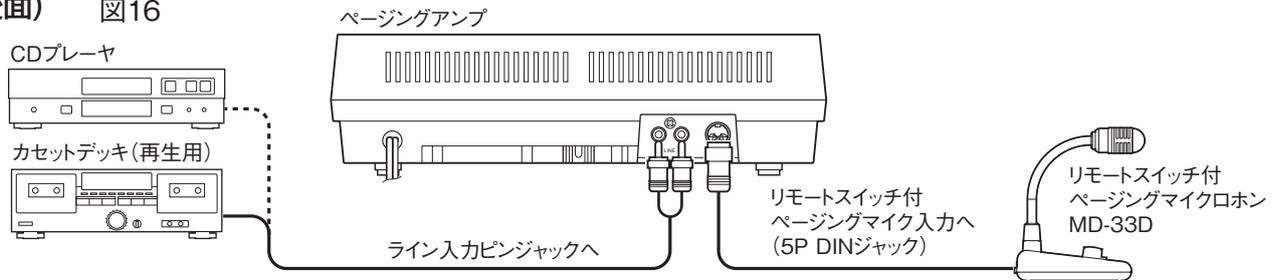
接続のしかた

接続例(UD-30/15共通)

(前面) 図15

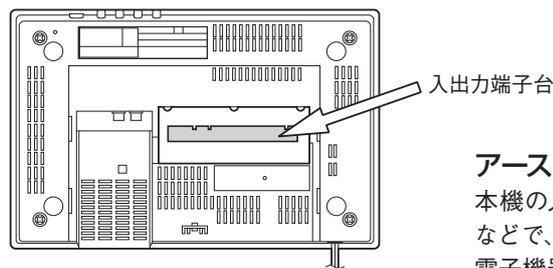


(後面) 図16



ご注意.. マイク放送は前面マイク入力か、リモートスイッチ付ページングマイク入力に接続されたマイクロホンのどちらかしかできません。両方のマイク入力にマイクロホンを接続された場合は、前面のマイク入力優先します。

(底面) 図17

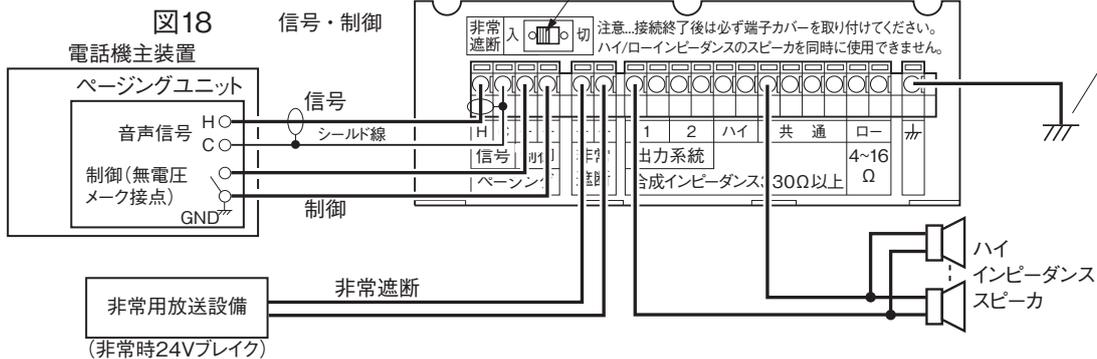


アース端子 (雑音低減用)

本機の入力端子に他の電子機器を接続する時などで、雑音低減の効果がある場合に、その電子機器の機能接地端子と接続するか、ラック等の共通の機能接地端子と接続してください。

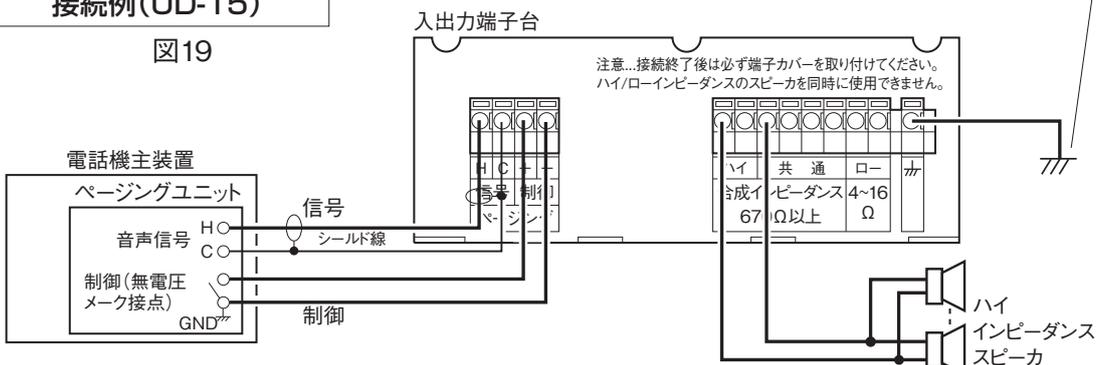
接続例(UD-30)

図18



接続例(UD-15)

図19

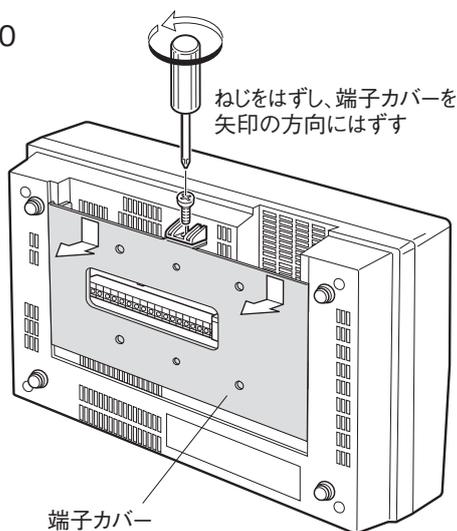


入出力端子台への接続について

1. 端子カバーを取りはずす

- 取付ねじをはずし、端子カバーを下向きにスライドさせ取りはずしてください。(図20参照)

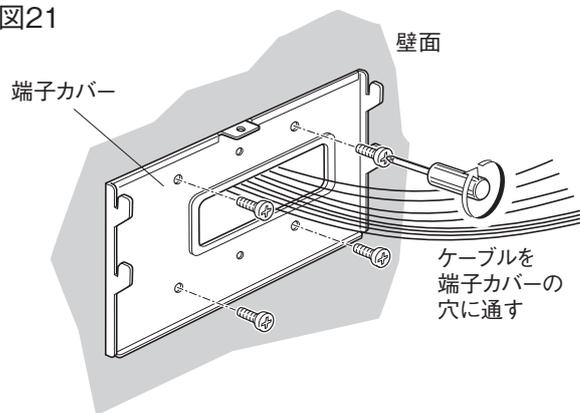
図20



2. 端子カバーを壁面に取り付ける (壁掛で設置の場合のみ)

- 壁掛で設置される場合は、先に端子カバーの穴にケーブルを通し、端子カバーを壁面に取り付けてください。(図21参照)

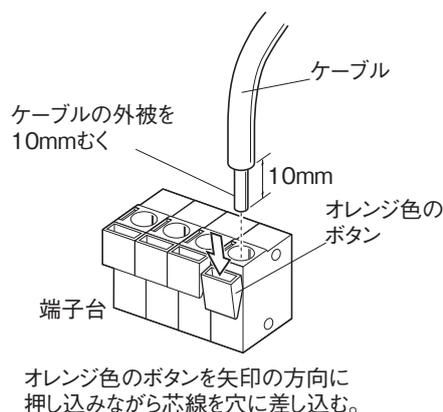
図21



3. ケーブルを端子台に接続する

- ケーブルの外被をむき(10mm)、端子台へ差し込みます。電線が単線の場合は、そのまま差し込んでください。より線の場合は、端子台のオレンジ色のボタンを押し下げながら差し込んでください。(図22参照)
- また、ケーブルを抜くときは単線、より線ともオレンジ色のボタンを押し下げながら引き抜いてください。
- 使用可能電線
 - ・ 単線φ0.65~φ1.6mm (AWG22~AWG14)
 - ・ より線0.3~1.25mm² (素線径φ0.18mm以上) (AWG22~AWG16)

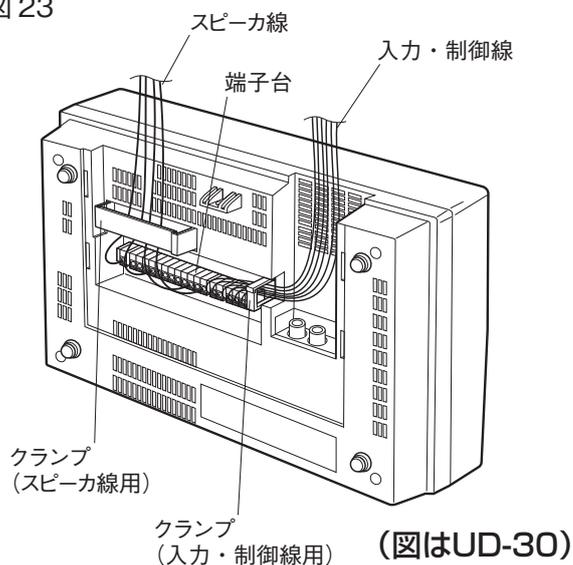
図22



4. ケーブルをクランプする (卓上、据置で設置の場合のみ)

- 卓上、据置で設置される場合は、ケーブルをクランプしてください。スピーカ線と入力・制御線は別々のクランプに通してください。(図23参照)
- 接続が終わりましたら必ず、端子カバーを取付けてください。(P12の設置のしかたの項をご覧ください。)

図23



警告

端子カバーをはずすときは、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。



ご使用中は、感電の恐れがありますので、端子カバーをはずさないでください。

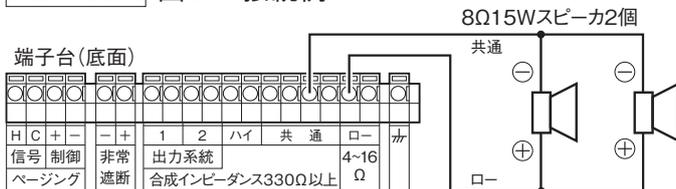
スピーカの接続について

ローインピーダンススピーカの接続

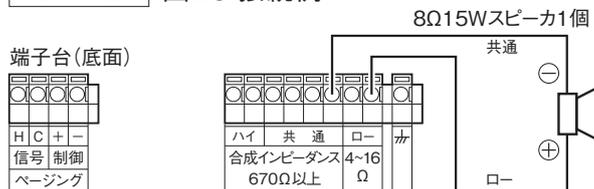
●接続できるスピーカは下表のとおりです。

アンプ品番(定格出力)	適合負荷インピーダンス	スピーカの必要容量
UD-30(30W)	4Ω~16Ω	30W以上
UD-15(15W)		15W以上

UD-30 図24 接続例



UD-15 図25 接続例



特にご注意ください..

- ローインピーダンススピーカとハイインピーダンススピーカを同時に使用することはできません。
- 多数のスピーカを接続するときは、全スピーカの合成インピーダンスが4Ω以下にならないようにしてください。
- 使用するスピーカの定格入力、スピーカ1個に加わる入力W数より大きいものを使用してください。

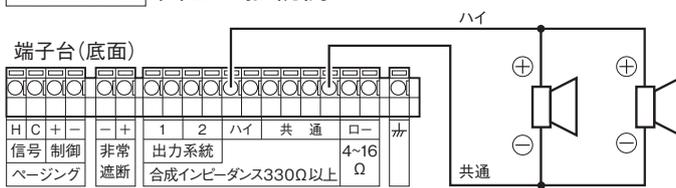
ハイインピーダンススピーカの接続

●接続できるスピーカは下表のとおりです。

品番	適合負荷インピーダンス	スピーカの必要容量
UD-30	330Ω以上	スピーカ(トランス付)の合計容量が30W以内
UD-15	670Ω以上	スピーカ(トランス付)の合計容量が15W以内

スピーカ出力系統スイッチを使用しない場合

UD-30 図26 接続例



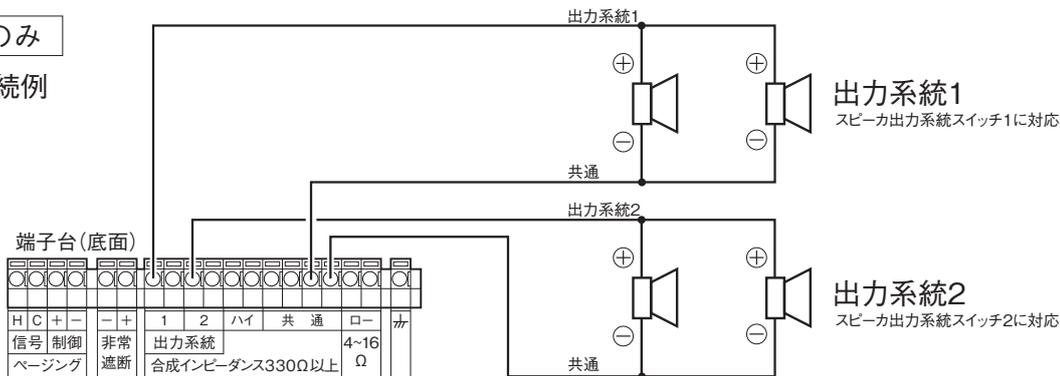
UD-15 図27 接続例



スピーカ出力系統スイッチを使用する場合(UD-30のみ)

UD-30のみ

図28 接続例



特にご注意ください..

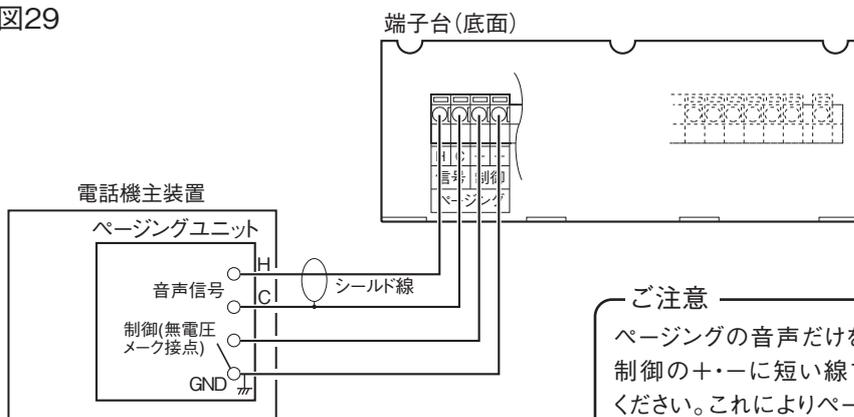
- スピーカの合成インピーダンスが、アンプの適合インピーダンスより小さくならないようにしてください。
- スピーカの合計W数はアンプの定格出力以下にしてください。
- ハイインピーダンススピーカとローインピーダンススピーカを同時に使用することはできません。
- 感電に注意! 出力端子には、定格出力時に次に示す電圧がかかります。
UD-30: 約100V(出力330Ω)、UD-15: 約100V(出力670Ω)

●接続が終わりましたら必ず、端子カバーを取り付けてください。(P12設置のしかたの項をご覧ください。)

ページングの接続について

- ページング制御は、無電圧メイク接点方式です。制御が働くとページング表示灯が点灯します。
アンプの電源が「切」のときでも自動的にアンプの電源が入り、ページング放送が可能になります。
UD-30の場合はスピーカ出力系統スイッチが両方選択され、出力系統表示灯1,2が点灯します。
- 音量調節は本機前面のページング音量調節つまみでおこなってください。
- 信号線と制御線を図29のように接続してください。
- 接続が終わりましたら必ず、端子カバーを取り付けてください。(P12の設置のしかたの項をご覧ください。)

図29



ご注意

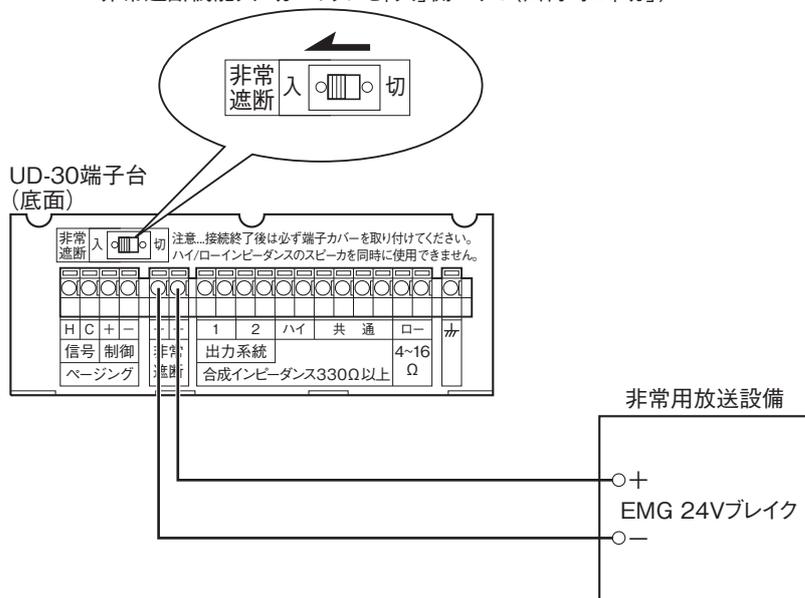
ページングの音声だけをお使いの場合は、制御の+・-に短い線でジャンパを掛けてください。これによりページング音声入力の回路が動作します。この場合、電源スイッチによる「入」「切」はできません。電源は「入」の状態です。

非常用放送設備との接続について (UD-30のみ)

- 非常用放送設備の非常外部端子(+24V非常時断)の制御線を本機端子台の非常遮断に接続してください。このとき、必ず非常遮断機能入/切スイッチを「入」にしてください。(図30参照)
- この制御線を接続しておくことにより、非常放送時に本機の非常遮断表示灯が点灯し、本機からの放送出力を遮断することができます。
- 接続が終わりましたら必ず、端子カバーを取り付けてください。(P12の設置のしかたの項をご覧ください。)

図30

非常遮断機能入/切スイッチを「入」側にする(出荷時は「切」)

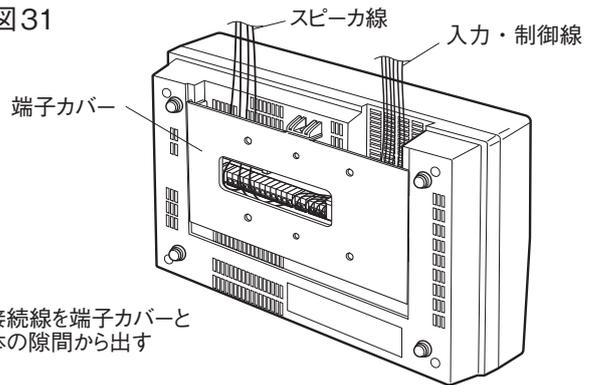


設置のしかた

卓上に設置する場合

- P9の入出力端子台への接続についての項を参考にして各接続線を接続した後、電線を端子カバーと本体の隙間から出して、卓上に設置します。(図31参照)

図31

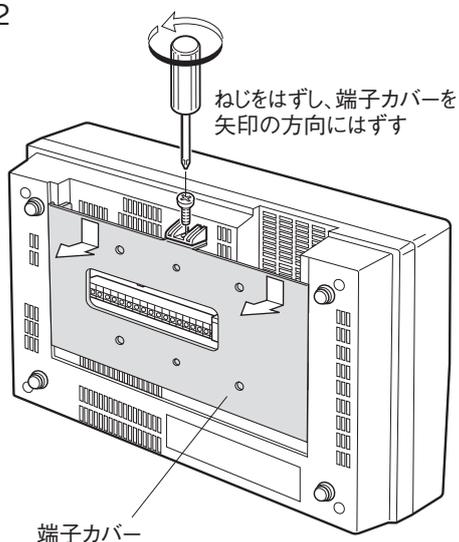


壁掛設置の場合

1.カバーを取りはずしてください。

- 取付ねじをはずし、端子カバーを下向きにスライドさせ取りはずしてください。(図32参照)

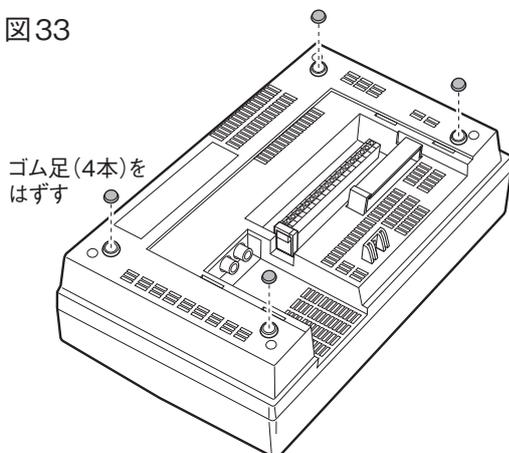
図32



2.本体底面のゴム足(4個)をはずします。

(図33参照)

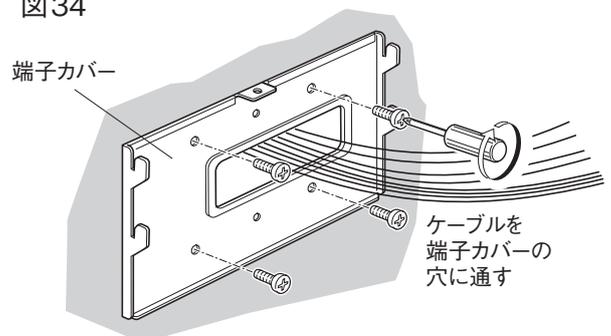
図33



3.端子カバーを壁面に取り付ける

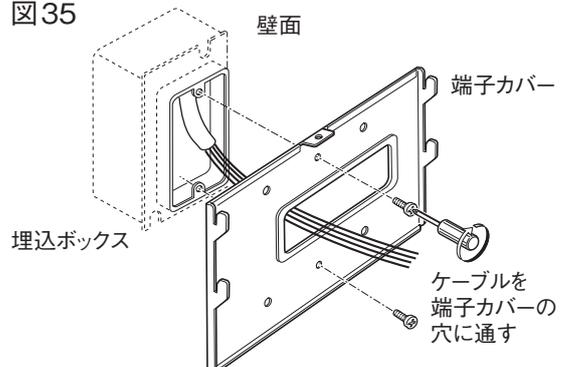
- カバーの穴にケーブルを通してから、端子カバーを壁面に取り付けてください。(図34参照)

図34



- ◎電線管用埋込ボックスをご使用の場合は、端子カバーを埋込ボックスに取り付けてください。(図35参照)

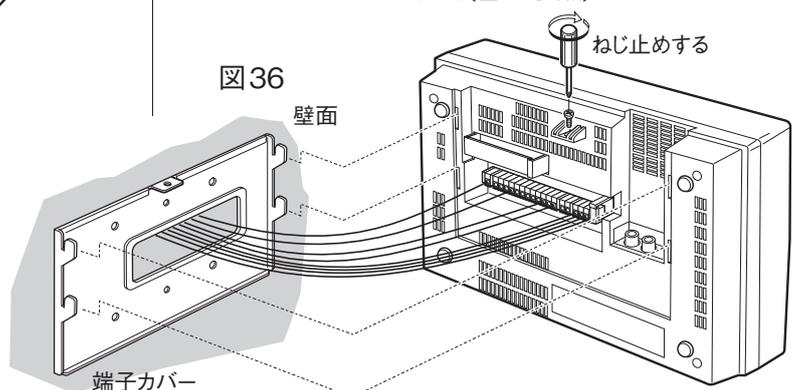
図35



4.端子カバーに本体を掛ける

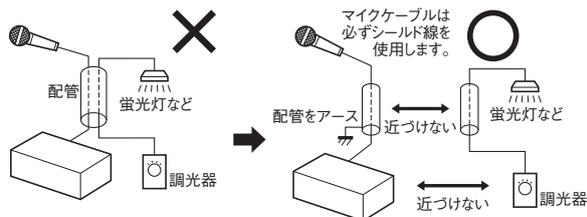
- 接続が終了しましたら、端子カバーに本体をひっかけてねじ止めしてください。(図36参照)

図36



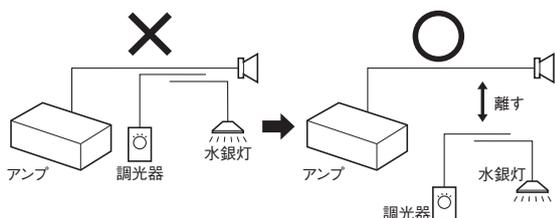
ノイズ対策について

外来ノイズの影響を受けないために、配線については次のような点にご注意ください。



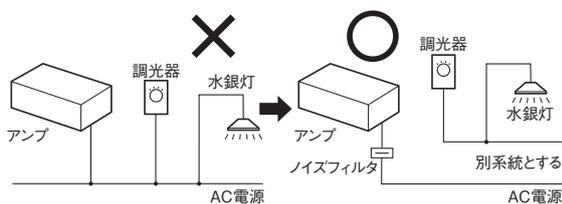
◆マイクケーブル等の入力線のノイズ対策

調光器系統、AC電源系統とは必ず別配管とし、離して布線してください。



◆スピーカ線のノイズ対策

スピーカ線は調光器、水銀灯などの系統線とは離して布線してください。



◆電源のとりかた

電源は調光器、水銀灯などの系統とは必ず別にしてください。それでも不十分な場合はアンプへのAC100V電源線にノイズフィルタを入れてください。

点検方法

ほんのちょっとしたことで正常に動作せず、故障かな?と思うことがあります。次の要領で点検してみてください。

症 状	点 検 項 目	対 策
全く動作しない。	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源表示灯が点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
マイクの音声が出てこない。	マイクプラグは確実に差し込まれていますか。	確認してください。
	マイクは正常ですか。	他のマイクと交換してください。
スピーカより音がでない。	マイクの音量調節つまみの位置が0位置になっていませんか。	適当な音量にしてください。
	端子板に正しくスピーカ線が接続されていますか。	P10のスピーカの接続方法をざらんになって確認してください。
音がわる	スピーカ線がショートしていませんか。	確認してください。
雑音が出る	音量が大きすぎませんか。	音量を調節してください。
外部接続機器の音がでない。または小さい。	スピーカ線やマイクコードなどは他の線と一緒に布線していませんか。	上記のノイズ対策をざらんになってください。
	接続機器及び本機の入力音量調節つまみが0位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
	接続機器のレベルは合っていますか。	P4～5の各部の名称と説明の各入力ジャックの説明をざらんください。

⚠ 警告

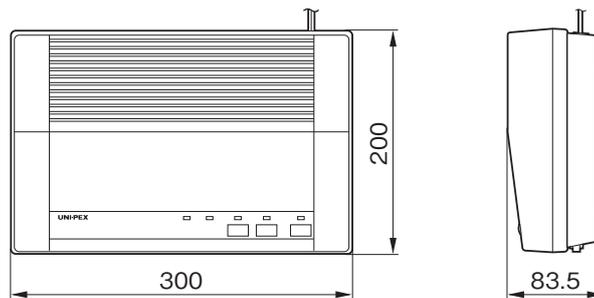
- 上記の方法で点検されても正常に動作しないとき、または使用中に急に異常が発生したときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙などの異常が無いことを確認し、販売店などへご連絡ください。
- 本機は絶対に分解しないでください。感電の恐れがあります。修理は、必ず販売店などにご依頼ください。

定格

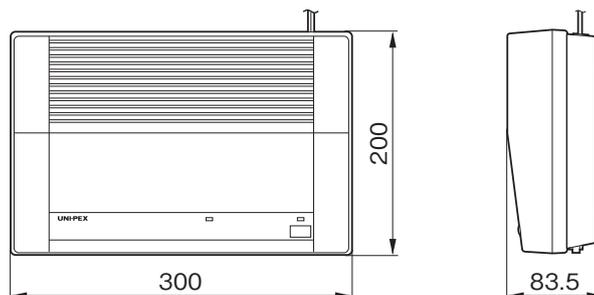
品番	UD-30	UD-15
使用電源	AC100V 50/60Hz	
定格消費電力	24W(電気用品安全法による測定方法に基づく)	14W(電気用品安全法による測定方法に基づく)
消費電流	AC 1.1A (定格出力時)	AC 0.6A (定格出力時)
定格出力	30W	15W
出力負荷インピーダンス	330Ω (ハイインピーダンスライン)	670Ω (ハイインピーダンスライン)
ひずみ率	4Ω~16Ω	
周波数特性	1%以下	
入力感度及びインピーダンス	100Hz~10kHz 偏差±3dB (定格出力-10dB時)	
信号対雑音比	マイク/リモートスイッチ付ページングマイク: -62dBV 600Ω 不平衡 音量調節器付 ライン: -12dBV 10kΩ 不平衡 音量調節器付 ページング: -12dBV 10kΩ 不平衡 音量調節器付	
動作表示	60dB以上	
付帯機能	電源表示灯: LED (赤)、ページング: LED (緑)、 スピーカ出力系統: LED (緑) ×2 [UD-30のみ]、非常遮断: (赤) UD-30のみ ページング起動端子 (電源起動及び出力系統同時起動) リモートスイッチ付ページングマイク起動 (電源起動及び出力系統同時起動) マイク及びページング入力によりライン入力信号を減衰 (0dB~40dB可変) 2系統スピーカ出力系統スイッチ付 [UD-30のみ] 非常遮断が可能 (非常時DC24V断にてアンプ動作停止) [UD-30のみ] オートマチックフェーダ回路 (マイク入力やページング入力により、ライン入力の信号を減衰)	
使用温度範囲	-10℃~+50℃	
外形寸法	ケース (ABS樹脂) マンセル10GY7.5/0.5 近似色 グレー 幅300mm 高さ83.5mm 奥行200mm	
質量	約2.2kg	約1.9kg
付属品	取扱説明書 (保証書兼用) 1	

外観寸法図 (単位:mm)

●UD-30



●UD-15



保証書

製造 番号	
保証 期間	お買い上げ日 年 月 日より 電子回路部1ヶ年、ケース(外装部)6ヶ月
お 客 様	お名前 見本 様 ----- ご住所 〒 電話() -
販 売 店	店名・住所 電話() - 印

保証規定

この保証書は日本国内においてのみ有効です。この保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
(This warranty is valid only in Japan)

無料修理保証の範囲

- ①保証期間内において、取扱説明書などに従った正常な使用状態において故障した場合に無料で修理いたします。
②修理の際は必ず保証書の提示があること。
③当保証書の所定項目に必要な事項が記入され、故意に字句を訂正していないこと。

無料修理保証の免責範囲

- (次のような場合は保証期間内でも有料修理となります。)
①使用上の誤り及びお取扱いの乱用などによる故障、磨耗。
②不当な修理改造による故障、損傷。
③正常なご使用でも、消耗部品の自然消耗、磨耗、劣化によるもの。
④お買い上げ後の落下、傷など、お取り扱い上に起因するもの。
⑤火災、水害、落雷、地震、その他の天災によるもの。また塩害、有毒ガス、異常電圧などが原因の損傷。
⑥故障の原因が本製品以外の機器の影響によるもの。
⑦常識的に正常な動作状態であるにもかかわらず、修理または部品交換などの要求をされる場合。

製造元 **日本電音株式会社**
発売元 **ユニペックス株式会社**

本書は本書記載内容で無料修理を行なうことを保証するものです。お買い上げの日から上記期間内に故障が発生した場合は本書を提示のうえ、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

サポートのご案内

■ 修理・お取扱い・お手入れについてのご相談・ご依頼は、お買い上げの販売店にお申し付けください。

販売店に修理を依頼する場合は、下記の項目をお確かめください。

- ①品名 ②品番 ③お買い上げ日 ④故障の状況 (できるだけ具体的にお願いします)

■ 販売店がご不明な場合は、最寄りの弊社営業所にお問い合わせください。

営業所情報はホームページ
もしくはQRコードにアクセス
してください。
<http://www.unipex.co.jp>



■ その他ご不明な点は、お客様ご相談センターへご相談ください。

UNI-PEX 0120-56-5245 (通話料無料)

お客様ご相談センター

受付時間 / 9:00~17:00 (土・日・祝日除く)

PHS・携帯電話からのご利用は、

072-855-3334 (通話料がかかります)

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】

お客様ご相談センターにおけるお客様の個人情報は、ご相談対応、修理およびその確認に使用いたします。個人情報は適切に管理し、正当な理由がある場合を除き、第三者に提供または開示いたしません。